第十週

メッセージ

尊い器

それは、ナザレのイエスのことです。

神はこの方に聖霊と力を注がれました。

このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、

また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。

使徒 10:38 新改

知るべき 3 つのこと

1. 悪魔は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

黙示録12:7～9 新改

2. 悪魔は、あなたが＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ことを願っている

身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めな

がら、歩き回っています。堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。　　Ⅰペテロ5:8～9a 新改

実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。

エペソ5:11 新改

3. 悪魔は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿に従う

終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

エペソ6:10～12 新改

あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです。

Ｉヨハネ4:4b 新共

権威

1. 最高の権威は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。確かに、わたしは、あなたがたに、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けたのです。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。」

ルカ10:17～19 新改

こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエ

スの御名にひざまずき…　　ピリピ2:10 新共

2. _____の権威

マタイ4章、ルカ4章…「～と書いてある。」

3. _____の権威

兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。

黙示録12:11a 新改

日々の３つのステップ

そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。

マタイ 10:1

口語

しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も…、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

ローマ8:37～39 新改

1. _____に従う

ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。

ヤコブ4:7～8 新改

2. _____を与えない

あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです。

Ⅱコリント2:10～11 新共

怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません。

エペソ4:26～27 新共

3. _____、敵に立ち向かう

私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ…

Ⅱコリント10:3～5 新改

***Freedom*の*videos*は、*www.koinonia.jp*の「教会員のページ」にあります。**

第十一週

尊い器

大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。
また、ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用います。
ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、
その人は尊いことに使われる器となります。
すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、
あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。

Ⅱテモテ 2:20～21 新改

この聖書箇所で使徒パウロは、器を例にして、クリスチャンが神に仕えることによって用いられる能力について、またそれぞれの目的を果たすことについて説明しています。ある器は、安いどこにでもあるものですが、他の器は、尊く特別な場面で用いられます。主人の手の中に、偉大なことを成し遂げる器があります。全ての人はそれぞれに違ったキリストとの歩みのうちにいるのです。ひとりとして同じ背景を持つ者はなく、ひとりとして初めから銀や金である者はおらず、プロセスなのです。今のプロセスに満足していないなら、神はあなたを次のレベルに引き上げたいと願っておられます。神は私たちを備え、聖め、尊い者へと変えられるお方です。今の自分は、特別で尊いと感じないとしても、神はあなたをそのように見ておられます。あなたは過去によって定められたり、制限されたりしません。神は、全てを新しくされ(Ⅱコリント5:17)、あなたを

尊い器にしたいと願っておられるのです。

黙示録 21:5 を記入

あなたは、今の神との関係に満足していますか？
どのように人生を変えたいと願いますか？

時に、他の人の外見で、霊的歩みが健全であるとみなしたりすることがあります。聖く義しく見えても、外見は欺く場合があります。人の内側にあるものは、外側からは判らないのです。これは、食洗機の中の食器に似ています。食器が洗い終わったものなのかどうか、ちらっと見ただけでは判りません。また、じっくりと見て綺麗に見えても、その食器はバイ菌だらけかもしれません。どれだけ表面が綺麗に見えても、汚いお皿では食べたくないものです。聖霊は、私たちの生活で神に用いられないようにしている存在をご存知で、神はその罪を示してくださいます。聖霊にその領域を示してもらいたいと願いませんか？もしあなたが神にそう願うなら、神はあなたを新しい聖さのレベルに引き上げられ、あなたの人生に奇跡を起こされるでしょう。

あなたの生活のどの領域を、聖霊に取り扱っていただき、聖められる必要がありますか？主に明け渡しながら、以下に書き出してみましょう。

第四週で、霊的優位性について学んだとき、義認と聖化について分かち合いました。義認は、救われるときに起こるものです。イエス様を救い主とするその瞬間、私たちの過去の罪は洗い流されます。神は、私たちが一度も罪を犯したことのなかったかのように、昨日までの罪を取り除かれるのです。

しかし聖化は、瞬時ではなくプロセスです。聖化とは、神が私たちの品性を練り聖める旅路なのです。神が私たちを聖化されるとき、神に似た者へと変え続けながら、信仰の次の段階へと連れて行ってくださいます。神は私たちの習慣的罪から解放し、心を聖め、神が私たちを造られた御国の目的を果たすために、私たちを力強めてくださいます。

以下の4つの段階を読み、現在あなたがどこにいるのか評価してみましょう。

クリスチャンの四段階

1. ノンクリスチャンからクリスチャンになる。
2. クリスチャンが成長を始める弟子になる。
3. 弟子が人生の目的を見出すリーダーになる。
4. リーダーがしもべになる。

クリスチャンとしてのこの旅路の最終段階が、しもべとなることだと知り、意外に思ったかもしれません。これは世の考えに反した概念です。しかし、クリスチャンとしての最大の目標は、神が私たちを造られた目的を果たすことであり、そのためには神のしもべになる必要があるのです。Ⅱテモテ2:21をもう一度見てみましょう。「ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。」この「主人」という単語は、ギリシャ語で「despotes」といい、これは、他のいかなるものに勝る権力、権威を持つ支配

者を意味します。神は私たちの友、救い主、守られる方でもありますが、同時に、神は主です。つまり、神が支配されるのです！そして私たちは私たちの王の喜びのために仕えるように召されたのです。

マタイ 20:26 を記入

尊い実践

私たちが尊い器となるためには、3つのステップがあります。体をささげ、心を新たにし、意思をゆだねるのです。

1. 体をささげる

> *こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。*
>
> ローマ12:1 新共

体は、罪が働く場所です。口から出る言葉、ものを見る目、何かに触れる手によって罪を犯します。ヨブ31:1で、義人が「私は自分の目と契約を結んだ。どうしておとめに目を留めよう。」と言っています。体に気をとめるなら、意識的に罪を避ける選択ができるのです。「主よ、私がここにおります。聖めてください。体のどの部分も、今までしてきたことも、洗い聖めてください。欲も、依存も、習慣も、舌も、態度も聖別してください。」と毎日言うなら、栄光の器

になるための大きな前進となるでしょう。

以下の聖書箇所にある命令の動詞に丸をしましょう。

それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。

Ⅱテモテ 2:22 新改

これからはもう、あなたがたの死ぬべき体を罪の支配にゆだねて、その欲望に従ってはいけません。体のどんな部分をも、罪を犯す道具にしてはいけません。むしろ、自分自身を神にささげなさい。あなたがたは、死者の中から生かされた者であり、神に使っていただく良い道具として役立つ者となりなさい。罪は、二度とあなたがたを支配しません。なぜなら、あなたがたはもう律法に束縛されてはおらず、恵みの中にあって、自由の身となっているからです。

ローマ6:12～14 LB

2. 心を新たにする

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき…

ローマ12:2a 新共

罪は体で働きますが、心が体を支配しています。罪は、心から生まれるのです。

私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、

すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ…

Ⅱコリント 10:3～5 新改

この聖書箇所では、霊的戦いはクリスチャン生活の重要な要素であると言っています。多くのクリスチャンは、神を愛してはいますが、どのように敵に対抗するか分かっていません。悪魔はあなたを破滅しようとたくらんでいるので、戦うために武装しなくてはなりません。(Ⅰペテロ5:8)

敵に対抗する方法のひとつは、論争をやめることです。つまり、敵の目標は、あなたの心に、神の考えに反したものを植えつけ、心の中で論争させることです。神の概念でさえも、その多くは聖書に反し、間違っています。敵の声に耳を傾けてはいけません。神のことばを聞くのです。例えば、聖書が「彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」(イザヤ53:5)と言っているなら、そのまま信じるのです！戦いは、世の考えと神の考えを入れ替えることです。私たちの考えを神のことばの真理に合わすなら、平安が私たちの心を治め、支配するでしょう。

霊的戦いにおける重要な質問は、悪魔は私たちに悪魔を信じさせることができるのか？です。聖書が真理だと言っていることと、自分の考えを照らし合わせなければなりません。世的な考えにさらされる音楽やテレビ、映画、本や娯楽の時間を減らし、みことばで心を満たしましょう。この世のチャンネルを切れば、神の声がはっきりと聞こえるようになるでしょう。

神のことばによって心を新たにするには、敵の嘘に対抗するみことばを用いることです。

敵の嘘を取り除く、みことばにある真理を書きましょう。

嘘	真理
困惑している。	Ⅰコリント2:16
怖い。	Ⅱテモテ1:7
希望がない。	エレミヤ29:11
死にそう。	詩篇118:17
悪いことが起こる。	詩篇91:10
神は祈りを聞かれない。	詩篇34:17
何も変わらない。	イザヤ43:18～19

3.　意思をゆだねる

何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。 ローマ 12:2b 新共

体が罪を犯し、心が体を支配しますが、意思が心を支配するのです。意思を神にゆだねるなら、神の完全な御心が私たちの人生の動機になります。マタイ6章で、イエス様はこのように祈りなさいと教えています。「御国を来たらせたまえ。御心をなさせたまえ」と。私たちの意思をかなえてもらうのではなく、このような心で祈るべきです。「父よ、あなたが願われていることを私は願います。神の御心がなりますように。」明け渡した心で神の御前に出るのです。祈りのこたえが具体的すぎるものに偏ってしまうと、神の声を理解するのが難しくなります。

ルカ 22:42 を記入

このように祈り、意思をゆだねるとき、私たちは生活のあらゆる領域で神に栄光を帰すことができます。このようにして、私たちは主のために尊く用いられるようになるのです。神は私たちのうちにある目的を奮起され、神の使命を果たすよう力づけ、天の御国を拡張されるのです。

戦いに備える

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

Ⅰペテロ2:9 新改

御国のために用いられることは、私たちの人生における最大の栄誉ですが、犠牲が伴います。私たちが目的のうちに歩み始めるとき、敵の注意を引いてしまうからです。敵の攻撃を見込んで、攻撃は激励のサインと受け取りましょう。つまり私たちが闇で世を覆っている敵の計画を脅かす存在になっている証拠だからです。だれも神の手からあなたを奪い去るようなことはありません。(ヨハネ10:28)しかしそれでもなお、私たちは敵との戦いに備える必要があります。敵対する者の策略を知るのです。敵は私たちの霊的成長を妨げる一番の方法を知っており、死の王国の目的は、私たちを罪に陥ることです。サタンは、有害なものに魅力を感じさせ、誘惑によって私たちが道を踏み外すようたくらんでいます。誘惑にあうとき、魂と体の欲を通して私たちの品性はテストされているのです。

だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。

ヤコブ1:13 新改

ここで理解しておく必要があることは、神は決して私たちを誘惑にあわせるようなことはなさらないということです。サタンと悪魔たちが試みにあわせるのです。サタンは、神とは違って一度に同じ場所に存在することはできません。しかし聖書が言うには、サタンが天から落ちたとき、御使いの3分の1を共に連れて行ったと言っています(黙示録12:4)。悪魔はサタンのしもべであり、サタンは私

たちの人生を破滅させるよう、悪魔たちを送ったのです。悪魔たちは私たちを誘惑に陥れるタイミングを狙っているのです。サタンは、園でエバを誘惑したそのときから今もなお、人間を誘惑し続けています。イエス様でさえ、悪魔による誘惑にあいました(マタイ4:1)。大祭司であるイエス様は、「私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでしたが、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」(ヘブル4:15)それは「私たちの内におられる方は、この世の内にある者よりも力がある」(Ⅰヨハネ4:4)ので、私たちは誘惑に打ち勝つことができるのです。

ヤコブ 4:7 を読みましょう。
悪魔の誘惑を拒絶することを選択するとき、どうなるでしょうか？

Ⅰコリント 10:13 を書きましょう。誘惑が耐えがたいと感じるとき、神はあなたにどのように働きかけてくださるでしょうか？

イエス様は、どのように誘惑に立ち向かうのかを洞察する力を与えてくださっています。イエス様が捕らえられ十字架にかけられる前に、ゲッセマネの園で弟子たちにこう言いました。「誘惑に陥ら

ないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」(マタイ26:41)言い換えると、私たちは神と会話し続ける必要があるということです。率直なコミュニケーションは、私たちを安全で目を覚まし続けます。思春期の子どもを持つ賢明な親は、子どもにただ話しかけることの価値を知っています。親子の堅固で開かれた関係は、子どもたちを守るからです。

悪魔から逃れるためのあなたがすべき能動的役割が分かりますか？敵に抵抗する選択と神から与えられる力があるのです。サタンの圧力に負け、生活の中ですきを与える選択もできます(エペソ4:27)。または、神にゆだね、敵を打ち負かす力を得ることもできるのです。

破綻

ロッククライマーは、足掛かりがあるので、断崖を登ることができます。敵にとって足掛かりは、私たちの人生における神の計画の破滅するための土台です。足掛かりは、敵に私たちの魂の領域を支配させてしまい、私たちが誘惑に負けるとき、敵に足掛かりを制させてしまうのです。ある特定の誘惑に繰り返し負けてしまうたび、その領域におけるサタンの支配力は次第に強まります。箴言5:22は、「悪者は自分の咎に捕えられ、自分の罪のなわにつながれる。」と言っています。最終的に、足掛かりは私たちの魂の中で、敵の要塞となってしまいます。その要塞は私たちの霊的状態にとって非常に危険で、取り壊さなければいけません。

私たちの生活で足掛かりになりうる束縛の領域は、怒りや憤り、虐待、情欲、アルコール依存、薬物、罵り、偽りなど、その他多くのものです。ある罪が私たちの環境の一部となってしまっている場合は特に、人生の早い段階から足掛かりが私たちの魂に住み着いてしまうことがあります。例えば、家庭で憤りがよくあったならば、憤りは当然の応答に思えるかもしれません。束縛の領域は、両親や祖父母からの代々の罪の結果である可能性もあります。イエス様はヨハネ8:34で「まことに、まことに、あなたがたに告げます。

罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です」と言っています。

束縛から抜け出すために

神は彼らを悔い改めさせ、真理を認識させてくださるかもしれないのです。こうして彼らは、悪魔に生け捕りにされてその意のままになっていても、いつか目覚めてその罠から逃れるようになるでしょう。

Ⅱテモテ2:25b～26 新共

神は私たちクリスチャンに、敵の攻撃と、生活の中で圧制された領域に打ち勝つ力を与えてくださっています。束縛から解放されるためには、罪を悔い改め、闇の力を振り払う必要があります。

悔い改め

罪を告白しただけで良心が聖められ、結果や責任からも解放されると信じている人がいます。罪を認めることは悔い改めの一部ではありますが、完全な悔い改めではありません。悔い改めとは、罪を認めるだけでなく、罪に背を向けて、もうしないと選択することです。テトス2:11～12は、神の恵みと救いにより、私たちは「不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活…」するように教えています。

Ⅱコリント 7:10 を読みましょう。
罪からの方向転換に葛藤する人は、何が欠けていると思いますか？

ローマ 2:4 を読みましょう。他に、何が私たちを悔い改めへと導くでしょうか？

あなたが罪の悪循環の中にいたとしても、希望を捨てないでください！神はその悪循環を打ち壊したいと願っておられます。悔い改めへと導く、神のみこころに添った悲しみを求め、神の善と親切を黙想しましょう。そして次のみことばを思い出してください。「人の歩みは主によって確かにされる。主はその人の道を喜ばれる。その人は倒れてもまっさかさまに倒されはしない。主がその手をささえておられるからだ。」(詩篇37:23～24)

闇を追い出す

Ⅰヨハネ1:7では、悔い改めれば、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめると言っています。しかし、罪を何度も告白し悔い改めても赦されたと感じないときがあります。

もしあなたがそのように感じているなら、それは罪に結びついた悪霊を追い出す必要があるからかもしれません。罪は時間をかけて、魂に引っ掛かったフックのように、敵に足掛かりを手に入れさせてしまいます。最も気を抜いているとき、自分は価値がなく打ち負かされたという感覚にさせる、引っ掛かるような経験をします。その感覚は、嘘なのです！あなたは罪を悔い改めたのですから、その罪はイエス様の血潮によって覆われています。イエス様の御名によって敵を追い出し、そのフックを取り除くのです。これによって、その領域における悪魔の支配を打ち砕き、神の赦しにある完全な平安を経験するでしょう。そのフックが取り除かれたなら、主に傷を癒していただき、その空いた部分を神の平安と力で満たしていただくように求めましょう。

神は、罪と闇のいかなる霊に打ち勝つキリストの権威をあなたにお与えになっているのですから、恐れる必要はありません。聖霊があなたと共にいます。また神はあなたを見放さず、あなたを見捨てないと約束されています（申命記31:8）。思い出してください。「私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ…」（Ⅱコリント10:4～5 新改）ることができるのです。

以下のリストは、乗り越える必要のあるよくある葛藤のリストです。サタンがあなたの生活の中で足掛かりにしているかもしれない領域を探り、祈りの例を使って悔い改め、闇の力を断ち切りましょう。

拒絶・虐待・自己嫌悪・自己卑下・低い自尊心

落ち込み・プライド・赦せない心・貪欲

罪責感・恥・情欲・性的不道徳・怒り・恐れ

例えば、低い自尊心のためには、以下のように祈ります。

1. 告白: 癒しは自分が間違っていると認めるところから始まります。まず、今まで真理でないものを信じ、敵の嘘に同調していたということを認めます。

> *天のお父様、今まで自分が無価値で愛されていないという嘘を信じていたことを告白します。あなたのみことばが私のことをどう言っているかを真理として信じていなかったことを赦してください。*

2. 悔い改め: 悔い改めとは方向転換することです。悔い改めるとき、方向を変え、今までと反対の道を歩むことを選択します。敵に同行するのはやめ、心を新たな思考にするのです。誰かがこれらの嘘によってあなたを傷つけたことがあるなら、

その人を赦し主に明け渡しましょう。

私は悔い改め、敵の嘘の同調から抜け出します。私は神にとって尊く、神から愛されているということを受け入れます。天のお父様、私はみことばと、あなたがわたしを何と言っておられるかを信じると選択します。私は、悪気があってもなくても、自分が無価値だと思い込むようにした_____を赦す選択をします。

罪を告白し敵の嘘を拒むときに、自分自身を神の真理に合わせ直すこと覚えることが重要です。私たちは、神のことばにある確信で武装し、敵に勝る権威を持って、私たちの生活から敵の嘘による影響を取り去るのです。

3. 追い出す： 私たちに対する敵の破滅的な言葉や仕業によって攻撃させ続けてはいけません。イエス様の御名の権威によって、敵に去るよう命令するのです。

私は自分が無価値だという嘘を追い出し、低い自尊心の霊よ、出て行け！イエスの御名によって、聖霊の力によって、私は無価値だという呪いと、その呪いによる全ての影響を打ち砕く！私の人生に、低い自尊心の霊が住まう場所はないと宣言します。

4. 祝福する: 敵が去ったら、敵が埋めていたその場所を、みことばにある真理と約束で満たしましょう。神があなたを見ておられる正しい見方を宣言し、自分自身にいのちを語りましょう。

私はエペソ2:10で言うように、私は「神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られた」(新改)ことを信じることを選択し、宣言します。私は自分には価値があるという祝福と人生の目的をもって歩み出し、神にあって私は高価な存在だと宣言します。

聖霊の識別力と導きのために祈りましょう。神はあなたが自由に

なることを願っておられます！

尊い人生

神は、あなたが栄光の器となるように造られました。その任務は、敵と戦い、生活を整理し直すことを必要としています。時に困難で厄介ですが、その報酬は計り知れません。従順することで人生は祝福されます(申命記11:27)。さらに、神はあなたを、家族の中では平和、コミュニティでは喜び、学校や職場では変化となる触媒として用いられるでしょう。

尊い器になるためのプロセスは、全体を見ると少し圧倒されてしまいますが、日々の小さなことに忠実でいることで、大きな進歩を遂げるでしょう。毎日意識的に神との時間を取り、決断に迫られる度、いのちの木的考えを適用しましょう。このようにして、あなたは人々の前に光を照らしはじめ、闇を追い払って、失われ、傷つき、孤独なこの地を希望で溢れさせるのです。

第十二週

礼拝

よみはあなたをほめたたえず、死はあなたを賛美せず、

穴に下る者たちは、あなたのまことを待ち望みません。

生きている者、ただ生きている者だけが

今日の私のように、あなたをほめたたえるのです。

父は子らにあなたのまことについて知らせます。

イザヤ 38:18～19 新改

これまでの学びを通して、1つはっきりとしたことは、あなたに対する神の愛は、真実でとてつもなく偉大だということです。私たちに対する神の愛を本当の意味で理解するとき、神に信頼を置き、神との関係が親密になると、私たちも神への愛が多く育まれるのです。神を愛するなら、「宗教的必須要件」が関係的喜びへと変わります。神を知り、神の命令に従うことは、私たちにとって喜びなのです。

神との関係からあふれでるものが礼拝です。礼拝とは、ただ歌を歌うことではなく、ライフスタイルなのです。礼拝は、仕えること、褒める言葉、ささげること、また歌ったり、踊ったり、時には叫ぶことによっても表現できるでしょう。このような生き方は、救い主を誉めたたえ、私たちのうちに聖さや確信、力を溢れさせます。そして素晴らしいことが起こるのです。それは、私たちが、神の御国の戦士となることです。

あなたは礼拝者として生活していますか？
もしそうであるなら、どのようにしていますか？　もしそうでないなら、礼拝者として生きるために、生活の何を変える必要があると思いますか？

愛と戦い

礼拝は実に、サタンと悪しき力に対する戦いの行為なのです！私たちが礼拝することによって悪魔は逃げ去り、天の領域において闇の力に打ち勝つ力が増します。詩篇149:6では、「口には神をあがめる歌があり／手には両刃の剣を持つ。」（新共）と言っています。

私たちの全ての思いを神に向けるなら、神の臨在の安全地帯に入ることができ、私たちの魂や体を制する敵のいかなる力も剥ぎ取ることができるのです。神の臨在のうちにいるなら、敵のすべての策略から守られます。私たちは、この世の支配者は「わたしに対して、なんの力もない。」(ヨハネ 14:30b 口語)と言ったイエス様のようになるのです。

イエスの血潮によって、私たちは大胆に神の臨在のうちに入ることができます。ヘブル9:22では「血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。」と言っています。罪の赦しがなければ、神の臨在に入ることはできないのです。イエスの血潮が、私たちの人生のシミや汚れを取り除き、大胆に恵みの御座に近づく道を開いてくれたのです(ヘブル4:16)。

血潮のほかなし

アダムとエバがエデンの園で罪を犯した時、神は「あなたは必ず死ぬ」と言われました。もちろん、園から追い出された後も、彼らは長い生涯を送ったのですから、これは霊的死を意味しています。思い出してください。罪には結果が伴うのです。しかし、人間が罪を犯したとき、神は人間の霊から分離したのにもかかわらず、被造物を捨て去りはしませんでした。アダムとエバは純真さを失い、裸であるとわかったので、神は動物の革から作った衣で彼らを覆いました。これが最初の血の犠牲でした。

旧約聖書では、罪は、動物がいけにえとしてささげられた時のみ赦されました。神は、この血の犠牲を礼拝行為とみなされました。動物の血は幕屋（聖所）の入口近くにある祭壇に注がれました。その後、ささげ物は、神の契約（十戒）が記された石板が収められた契約の箱が置かれていた聖なる場所、至聖所に運ばれました。血は契約の箱の贖罪蓋の上に置かれ、いけにえが正しくふさわしければ、神の臨在がくだるのでした。

幕屋の中には、聖所と、神の臨在が住まう至聖所とを仕切る分厚い隔ての幕がありました。この幕は、大祭司以外、神に近づくことができないことを表すものでした。イエス様が十字架上で霊を明け渡された時、神殿の幕は上から下まで裂けました。下から上に裂けたのではありません。神が上から幕を裂いたのは、神がその所から出られたからです。その数週間後の五旬節の祝祭の日、神は信じる者の心の中に、入ってこられたのです。

真理が明らかに

すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。 使徒2:2～3 新改

使徒 2:4 を記入

使徒2章に書かれている、神の臨在によるとてつもない体験は、イエスの血潮という犠牲が受け入れられたことによって、可能となりました。この新しく更に良い方法で、私たちが神を体験できるようにしてくださったことに感謝しましょう！「また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」(ヘブル9:12)この贖いは、神と共に生きる永遠のいのち、魂と体の癒し、敵の全ての力からの解放をも含むのです。

黙示録 12:10～12 を読みましょう。日夜、神の御前で私たち、信じる者の告発するサタンは、打ち負かされたと神は言われます。11 節を書きましょう。

イエスの血潮がサタンに打ち勝ちました。クリスチャンとして私たちは、勝利のために戦っているのではなく、勝利のゆえに戦っているのです！神殿の幕は裂け、勝利はすでに勝ち取られ、サタンは打ち砕かれました。もはや神の臨在から、私たちを引き離すものは何一つありません！ですから今、私たちは神との親しい関係を築くことができるのです。神は私たちに対する愛を宣言し、示されました。私たちはただ、その愛を受け取り、どのように神を愛し返すのかを学ぶのです。

初めの愛

神は、私たちの心とつながることを切に願っておられます。マタイ15:7～9でイエス様は、口先だけで敬う人もいるが、「その心は、わたしから遠く離れている。彼らがわたしを拝んでも、むだなことである。」とおっしゃいます。真の礼拝は、首尾一貫して神と結ばれた心から出るものであり、そのつながりは2つの方法で起こります。（信者たちと集う）集団的に、そして（いつでも、どこでも）個人的にです。

集団での礼拝が大切なのは、同じ思いを持った人と集うときに、信仰が増すためです。たとえ私たちが不安にとらわれ、疲れて教会やスモール・グループに来たとしても、礼拝の雰囲気に溢れた環境に入ると、途端に内側が変わります。個人の礼拝は、積極的に、意図的に内側を賛美に溢れさせることです。どこにいても、いつでも、私たちは礼拝者の態度をもって神の臨在を経験することができるのです。

あなたの礼拝は、真心から出ていますか？
日常生活で賛美の空間を作り出すために何をしていますか？

川から学べること

神との真の関係を築きたいと願いながらも、時に不可能に思えることもあります。聖書を読もうとしても、同じ個所を繰り返し読み、なかなか進まないという経験をしたことはありませんか？または、祈ろうとしても、祈りに限界を感じたことはありませんか？もしそうならば、あなたがどのくらい明け渡しているか、チェックする必要があるかもしれません。あなたは、神を信頼していますか？神は、あなたの心を願うのと同じくらい、あなたの信頼を願っておられます。なぜなら、信頼がなければ、あなたの心は完全に神のものとなることはないからです。

私たちはよく、「あなたは我が主です」と言いますが、でこぼこ道ではハンドルを握ります。多くのクリスチャンは、一番幸せで、一番楽しく、自分にとって一番望ましい生き方を探すことに気を取られてしまいますが、私たちの人生における神の御心を見出すためには、全て握っているものを明け渡す必要があるのです。「私のいのちは私のものではありません。私は尊い代価によって買い取られました。私はあなたのしもべになることを選択します。王なるイエス様、私に何をすることを願っておられますか？」このように言うことから始まります。このような態度でいるなら、私たちの想像を超え、自分の力では得ることのできない満たされた人生を生きるようになるでしょう。

エゼキエル47:1～12を読みましょう。この幻の中での川は、神の臨在を象徴しています。私たちが神との関係に踏み入るとき、顔まで浸からないよう人生をコントロールし、つま先を地面から離さないでおこうとする傾向があります。しかし神は、私たちが神を信頼し、より深くまで行き、神の臨在による満たしを体験するようにと招いておられます。神に支配を明け渡すとき、私たちは神の愛の流れに乗って、神との旅を自由に楽しむことができるようになるでしょう。神が信頼するに値する方だと分かれば、私たちは躊躇せずに支配を手放し、霊的優位性のうちに生きることができるようになるのです。

礼拝の4つのレベル

足首まで：

神の臨在の中で新たになることを喜びますが、まだ完全に自分で握っています。水しぶきを上げて遊んで、すぐに川から出る選択をしてしまいます。

膝まで：

神（の臨在）の流れを感じることはできますが、まだ自分で支配している状態です。膝までの深さの場所からは、さらに深い所まで入っていった人たちを眺めることができ、神の臨在のうちに「喜びが満ち」（詩篇16:11）ていることを伺えますが、まだ川岸が安全だと思っています。

腰まで：

ここでは、神の臨在の流れが速くなります。深くまで入ってきましたが、流れに抵抗して地面に足がつかなくなってきます。しばしば、周りの人からどう思われるかという恐れや、コントロールを失う恐れが、私たちを川岸に戻そうと試みます。重大な決断を下すのが、この場所です。誰がコントロールするのか？神か？私か？

川のド真ん中：

ここが、神の臨在の満たしを経験できる所尾です。コントロールする抵抗を止め、替わりに足を上げて浮かび、神の流れに身を任せます。神が連れて行かれるところに行く。これが良いのです。

多くの人は足首、膝、腰までの深さで神を経験したいと思いますが、そういう人は自分で支配していたいのです。つまり、「神のなさることをしたい」と願いながらも、神に支配させすぎないように自分で握っているのです。このように生きている人は、自分自身を神の支配に手放したら、自分の願わないことをさせられるという

嘘を信じてしまっています。神によって困惑させられ、行きたくない遠いところに連れて行かれると思っているのです。しかし真実は、神は子どもたちに善いことしかなされないのです。あなたが心から「神様、ご自由になさってください」と言えるようになって初めて、真の礼拝の場に来ることができるでしょう。

神がエゼキエルを川岸に引き戻すと突然、驚いたことに、川の両岸に果樹が生え、川がいのちに満ちていたのです！エゼキエル 47:9(新共)は、「この川が流れる所では、すべてのものが生き返る。」と言っています。木々の葉は枯れず、実は絶えず、毎月、そのいのちの水により新しい実が生ります。木は癒しを、魚は収穫を表しています。神の御心と臨在に自分自身を手放すとき、素晴らしいことが起こります。すなわち、魂が救われ、人々は癒され、そして真のいのちある人生を経験するでしょう！

箴言 3:5～6 を記入

真の礼拝者となる方法

1. 神に愛を示す

主はその御目をもって、あまねく全地を見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてくださるのです。

Ⅱ歴代誌16:9a 新改

神はあなたと、ただ歌うだけではなく、約束の（献身的で、破ら

れない）契約関係を築きたいと願っておられます。神はあなたに、神の臨在を求め、喜んでほしいと願っておられます。神はあなたの最善をささげるに値するお方なのですから、溢れ出す心から神を礼拝しましょう。詩篇84:1～2は、神を礼拝することを切望する詩です。「万軍の主。あなたのお住まいはなんと、慕わしいことでしょう。私のたましいは、主の大庭を恋い慕って絶え入るばかりです。」

詩篇 84:2 の後半を書いて、この節を完成させましょう。

2.　無条件の礼拝をコミットする

真の礼拝とは、気分が乗らなかったとしても、神をたたえることを意味します。神を礼拝することにコミットしなければいけません。スポーツチームのように、神に条件付きで近づくことが当たり前になっているかもしれません。チームが勝って良いプレーをしているなら、喜んで試合に取り組むが、物事が思ったようにいかないとき、やる気をなくし放棄する。これと同じように、人生が上手くいっているときは神をたたえますが、物事が上手くいかないと、手を抜いてしまいます。良い時も悪い時も、神の臨在を強く感じる時も感じない時も、祈りが答えられた時もそうでない時も、神は礼拝を受けるに値するお方なのです。

ダニエル書には、他の神々にひれ伏すことを拒んだ故に、燃える炉の中に投げ込まれ、ネブカデネザル王によって処せられた神の礼拝者であるシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの話が書かれています。彼らは「わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。」（ダニエル3:17　新共）と言いました。

ダニエル 3:18 を記入

私たちの状況良し悪しが、神が礼拝に値するのかどうかに影響を与えることはありません。生活の中でどんなことが起こっても、神を礼拝する姿勢を持ち続けるのだと、コミットをしなければならないのです。

3. 日々の生活に神を招き入れる

> *わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。*
>
> ヨハネ 15:5 新改

私たちの多くは、日曜日が月曜日と全く違うので、神との関係に葛藤を覚えます。日常の世界が「教会の世界」と違って見える時、生活を区別して、神を私たちの心に入れないようにしてしまいます。この日常の世界と信仰の世界は、イエス様を礼拝するとしたコミットメントを反映した、同じものであるべきです。

私たちは、結婚、子育て、仕事、休暇や趣味などに、神にどのようにして関わっていただけば良いのか分からない時があります。生活の全ての領域に、神をお招きするのです。親としての新たな訓練の壁に直面したなら、どうするべきか神に尋ねるのです。職場で誰かともめたなら、その状況をうまく乗り切れる知恵を神に祈り求めるのです。頭痛がするなら、神に癒していただくのです！区別しないようにしましょう。神はあなたの生活の全ての側面に関わりたいと願っておられます。神はあなたのことを、あなたに起こることを心配してくださっています(Ⅰペテロ5:7)。生活の全ての領域に神に入っていただいているかどうかで、神にどのくらい明け渡しているかが明らかになります。私たちのすること全てに神を招き入れることで、日々、礼拝の時をささげることになるのです。

ローマ 12:1～2 を記入

4.　従順する

聖書で最初に礼拝について言及される箇所は、神に対する無条件の愛の心を示す話においてです。創世記22章で、アブラハムがイサクを祭壇に差し出した話です。アブラハムは最愛の息子を神に明け渡したのです。神は、これを礼拝と呼ばれました。

> *ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。*
>
> ヘブル13:15　新改

ヘブル 13:16 を記入

私たちが神にささげることのできる最大のいけにえは、無条件の従順よって神に仕える謙遜な心です。このような礼拝を神は喜ばれます。以下のイエス様の驚くべき約束を、声に出して読んでみましょう。

> *わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。* ヨハネ14:21 新共

5. 畏敬を示す

> *主を畏れることは知恵の初め。これを行う人はすぐれた思慮を得る。主の賛美は永遠に続く。* 詩篇111:10 新共

この聖書箇所にある「畏れ」は、尊敬を意味します。私たちの神は全能であり、最高の、考えには及ばない、他に並ぶことのないお方です。畏れと尊敬をもって神に近づくことが、ふさわしい態度なのです。真の礼拝には、主に対する畏敬が必要です。

> *しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。* ヨハネ4:23 新改

この聖書箇所での「礼拝」は、ギリシャ語で*proskuneo*、すなわち、「尊敬の意をもって主人の手にくちづけをする」という意味です。これは、愛と尊敬を示し、力強い組み合わせです。神を畏れ愛するとき、私たちは計り知れない偉大さの守りの下に身を避け、安全なのです。礼拝に対する畏敬の態度は、神の臨在のうちに休ませてくださいます。神が「ジャンプしなさい」とおっしゃるなら、「主よ、どのくらい高く跳びましょう？」と言うのです。

霊と真によって

すべてに耳を傾けて得た結論。「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。神は、善をも悪をも／一切の業を、隠れたこともすべて／裁きの座に引き出されるであろう。

伝道者12:13～14 新共

私たちは、生活を神のことばの真理に合わせることで、神を愛し、神のために生きる機会があります。神に対する愛と、神への従順を別で考えることはできません。神は私たちに、霊だけでなく、熱意、感謝、愛情、そしてまことをもって礼拝をささげることを願っておられます。「まこと」によって礼拝するには、私たちの生活を点検し、神のことばに沿わないいかなるものを排除する必要があります。

神に聖めていただくように求めるのです。真の礼拝は、聖いところから始まります。たとえどんなにジャンプしても、手を打ち鳴らし歌っても、もし秘密の罪や過ちを犯している領域を神に明け渡さないのなら、神を喜ばすことはできないでしょう。次の祈りの中のへりくだる心を見てください。

神よ。私を探り、私の心を知ってください。
私を調べ、私の思い煩いを知ってください。
私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、
私をとこしえの道に導いてください。　詩篇139:23～24 新改

あなたの生活の中で、神を悲しませ、神の臨在を無視していたことを聖霊に示していただき、その領域に向き合い、自分自身を神のことばに合わせましょう。このプロセスを歩む中で、聖霊の声は罪を示してくださいますが、悪魔のささやきは罪を定めるということを覚えていてください。正しく応答することができるように、どちらの声か聞き分ける必要があります。罪を定める声は、「問題が起きた。見てみろ。全部あなたのせいだ。抜け出す道はない。」と言ってきます。これは神の声ではありません。私たちの天の父は、キ

リスト・イエスにある者は決して罪に定められることはないと言っています(ローマ 8:1)。神は、あなたを裁くためでなく、救うために独り子を送られました(ヨハネ 3:17)。聖霊による示しは、「問題が起きたので、何とかしよう。希望があり、抜け出す道もある」というのです。

イエスの血潮を思い出してください。イザヤ1:18で神は「『さあ、来たれ。論じ合おう。』と主は仰せられる。『たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。』」と言っています。イエス様は、私たちが聖く歩めるようにしてくださったのです！聖い手と純粋な心で、神を礼拝するように努めようではありませんか。

真夜中の時

私たちが神の善意、備え、癒し、贖い、聖さに完全に焦点を当てているとき、私たちは敵との戦闘態勢にあるのです。礼拝には、とりでを打ち壊し、環境を変える力があります。

礼拝は、私たちの生活に自由をもたらすだけでなく、他の人をも自由にする力があります。使徒16:23～24では、パウロとシラスが牢に入れられています。彼らは捕らわれ、むち打たれ、奥の牢に入れられてしまいます。鎖でつながれ、弱り、暗闇に包まれ、恐れしかない中、彼らはどうしたでしょう？礼拝をささげました。

> *真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みなの鎖が解けてしまった。*　　使徒16:25～26 新改

その夜、救いは看守とその家族を含む、多くの人々に訪れました。これが真の礼拝の力です。鎖が解け、人々は自由になりました。私たちの愛と心の焦点が神に向かうとき、私たちの願いや思いをはるかに超えて素晴らしいことをなさる神を体験するでしょう

（エペソ3:20）。人生をかけて神を愛することを選択すれば、あなたに不可能なことは何一つありません。

聖さのために祈る

神はあなたを聖めたいと願っておられます。もしあなたの生活でどうにかしなければならない罪の領域があるのなら、神の赦しを求めましょう。例として以下の祈りを使ってみましょう。

天の父よ、あなたに罪を犯し、自分勝手に生きてきたことを赦してください。言い訳はしません。今、罪を告白します。（神に手放す必要のある罪を声に出して言い表しましょう。）この罪から解放され、方向転換することを選択します。

私を赦し、聖めてください。あなたの赦しを今受け取ります。あなたは憐れみを示してくださっていることを知っています。主よ、私を解放してくださり感謝します。私は、心を尽くしてあなたを愛し、礼拝することを選択します。

イエス様の御名前によってお祈りします。アーメン